

修正版 Perceived Health Competence Scale (PHCS) 日本語版の 信頼性と妥当性の検討

トガリタイスケ ヤマザキヨシヒコ コイデショウタロウ ミヤタアヤコ
戸ヶ里泰典* 山崎喜比古* 小出昭太郎²* 宮田あや子*

目的 地域や職場等の保健計画において、能力面の評価指標として Perceived Health Competence Scale (PHCS) が期待されている。そこで PHCS 日本語版のワーディングを修正した修正版 PHCS 日本語版の信頼性および妥当性を検討することを本研究の目的とする。

方法 日本国民全体より層化二段抽出した男女3,000人に対し、面接法を行い1,910人より回答を得た(回収率63.7%)。信頼性分析として、Cronbach α (以下 α) 係数による内の一貫性の確認と、Item-Total 相関分析、および項目削除時の α 係数を算出した。妥当性の検討として、PHCS スコアと性、年齢、慢性疾患の有無、18歳時の慢性疾患の有無の4つの属性特性との関連性について、および健康関連ライフスタイルの各指標との関連について一般線形モデル (General linear model; GLM) による分散分析を行い、内容妥当性および構成概念妥当性の検討を行った。

成績 α 係数は.869と十分な値となった。また、Item-Total 相関、項目削除時の α 係数では異常値はみられず一定の信頼性が確保された。一方、年齢に関しては60歳以上と未満とで差がみられた。慢性疾患をもつ人、および18歳時に慢性疾患をもっていた人のほうが低い PHCS スコアであることが明らかとなった。また、性、年齢、慢性疾患の有無、18歳時の慢性疾患によらず、PHCS スコアは、喫煙、運動、食習慣と大きく関連が見られたが、飲酒、健診受診頻度とは関連がみられなかった。

結論 修正版 PHCS 日本語版の信頼性、妥当性は概ね示された。修正版 PHCS 日本語版は使用可能であると考えられる。また、縦断研究による PHCS の予測妥当性の検討のほか、形成要因・介入方法の検討が望まれる。

Key words : 主観的健康管理能力スケール, 自己効力感, 健康関連習慣, 保健行動, 主観的有能感

* 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻健康社会学分野

²* 昭和大学医学部公衆衛生学教室

連絡先: 113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻健康社会学分野 戸ヶ里泰典